



都志見新聞

医) 医誠会 都志見病院
<http://tsushimi.jp>
発行部数 278部
発行月 1・4・7・10月
発行人 都志見病院
広報室

山本理事長兼病院長 就任のご挨拶

このたび、令和8年7月29日より医療法人医誠会の理事長に就任いたしました山本 達人（やまもと たつひと）です。

当院は昭和26年に外科医院を改め都志見病院として新築開業し、平成4年に現在地に移転、平成9年1月に医療法人化し現在に至っております。

当院は開設以来がん診療に注力しており、平成20年に山口県から萩医療圏のがん診療連携推進病院に指定され、平成27年4月には厚労省より地域がん診療病院の認定を受け、萩地域のがん診療拠点の役割を担うことになりました。



理事長兼病院長 山本達人

また、平成10年には山口県から災害拠点病院に指定され災害医療にも力を注いでまいりました。

そして、令和4年2月から山口県の新型コロナウイルス感染症入院協力施設に指定され新興感染症対策にも参画しております。

日本の20年未来を行く人口減少地域の萩医療圏は少子高齢化・超高齢者社会、医療従事者の不足と偏在等の深刻な問題に直面しております。特に細りゆく医療資源、特に医療人材が不足する現状を踏まえ、「地域医療が今後その質を担保しながら持続していくための再構築を行うことが必要である」と考えます。そのためには地域の医療提供体制は、各病院が異なる機能を担う「役割分担」によって再構築すべきと考えます。

病院がそれぞれ競合しない診療機能を担う必要があり、地域全体を一つのメディカルセンターと捉え「質を担保しつつ効率的かつ効果的に地域医療を提供することが重要」と考えます。その中で当院は新しい理念「明るい未来を展望し地域の皆さまが安心して暮らせる持続可能な医療を提供する」をかね「高齢化社会に対応した地域を支える医療」の実現を目指します。すなわち治す医療から治し・支える医療へ：急性期から包括期・在宅まで切れ目のない良質な医療を提供いたします。

今後は、これまで培ってまいりました当院の診療形態や病院機能を踏襲しつつも、時代の変化と社会の要望に恐れずに対応し、地域医療を支える病院として発展していきたいと考えております。そのためには、地域住民の皆さまとの対話を大切に、地域の医療機関との連携をさらに推進していく必要があると思います。「多様性と対話から未来の地域医療を創造する」を新たなビジョンとして掲げ、地域住民の皆さまと共に前進してまいりたいと思っております。大変きびしい医療環境ではございますが、引き続き皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

医療法人 医誠会 都志見病院 理事長兼病院長 山本達人

透析継続40年表彰（腎友会）松尾幸恵 様

当院に通院で透析をされている松尾幸恵様が、このたび全国腎臓病協議会より、透析継続40年の表彰を受けられました。40年もの長きにわたり、透析をしながら現在も健康に生活されていることは、松尾様の自己管理の賜物であり、他の患者様やスタッフの励みになります。そんな松尾様より、お言葉をいただいております。



【松尾様からの お言葉】

「家族と透析室スタッフに感謝！ ありがとうございます。」

お知らせ

野村知由樹 臨床工学技士長

（公社）日本臨床工学技士会 理事長賞受賞



当院の臨床工学技士である野村知由樹 氏が、（公社）日本臨床工学技士会の理事長賞を受賞しました。

当院の院内業務のみならず、日本全国の技士が集まる職能団体への貢献が認められました。

医療機器の専門家として、安心・安全な医療を目指して、今後も臨床工学部一同、努力してまいります。

萩商工高等学校2年生のインターンシップ



9月16日からの3日間、萩商工高等学校2年生によるインターンシップが実施されました。

今回のインターンシップでは、病院の概要や院内見学や、感染予防の基本となる手洗い・手指消毒、バイタルサイン測定、聴診、車椅子やストレッチャー体験、シーツ交換等、実際の看護の現場で行われている様々な業務を見学・体験してもらいました。



体験では患者さんと直接関わる機会もあり、最初は緊張した様子だった生徒さんにも、徐々に笑顔が見られるようになりました。患者さんから「仕事と
思っているのではなく、その人のために思っているんだよ」という言葉が心に残ったという感想もありました。医療の仕事には、専門的な知識技術だけではなく、「目の前の患者さんのために何ができるか」を考える気持ちが大切です。

今回の体験が、生徒の皆さんにとって将来の進路を考えるきっかけになり、看護の仕事の魅力を感じてもらえる機会になれば幸いです。

参加してくださった皆さん、3日間お疲れ様でした。



リレー・フォー・ライフ・ジャパン2026 やまぐちに参加します



リレー・フォー・ライフ・ジャパン2026 やまぐちに参加します。

「がんサロンだいたい」と「都志見病院看護部」は、がん征服・患者支援チャリティイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2026 やまぐち」にルミナリエで参加します。一つひとつの灯りに、がんと闘う方へのエールを、そして患者さん・ご家族への想いを込めて。

「ひとりじゃない」 そんな想いが届きますように…

これからも、地域の皆さまに寄り添う看護を大切にしていきます。

「患者サロン・だいたい」様より

氷枕と尿器カバー、心電図モニター用ポシェットを寄贈いただきました



今年もがんサロン「だいたい」のメンバーの皆さまが、入院患者さんの為に氷枕カバー30枚と、尿器カバー10枚、そして今年は看護師のリクエストで、心電図モニター用ポシェットを21個作成してくださいました。モニターを付けて入院生活をする患者さんの助けになる一品となります。毎年患者さんの入院生活を思い、心を込めて準備してくださるサロンの皆さまに、感謝の気持ちでいっぱいです。いただいた品々は大切に使用させていただきます。

患者さんを支えるのは、医療者だけではなく、がんサロン「だいたい」の皆さま、今年も本当にありがとうございました。

第22回 がん出前講座in川上

学んでみよう！ がんと地域医療（予告）

【日時】：令和8年11月7日（土） 【時間】：9:30(開場)～11:40
【開場】：川上公民館 **【入場無料・申込不要】**

◎講演1「がんについて学んでみよう」都志見病院 院長 山本達人

◎講演2「今までの人生で聴いてきた音楽が、温かく自分を包んでくれる
～緩和ケアを目的とした音楽療法～」

都志見病院 音楽療法士 小池みなみ

◎講演3「がんと地域医療」患者サロン「だいたい」代表 岡野芳子 様

第22回 がん出前講座 in 川上
学んでみよう！ がんと地域医療へ

日時 令和8年11月7日(土)
会場 川上公民館
開場 9:30～
山形県立川上病院、がんパンフレット配布
患者サロン「だいたい」について

プログラム (10:00～11:40)

- ① がんについて学んでみよう
都志見病院 理事長 山本 達人
- ② 今までの人生で聴いてきた音楽が、温かく自分を包んでくれる
～緩和ケアを目的とした音楽療法～
音楽療法士 小池みなみ
- ③ がんと地域医療
患者サロン「だいたい」代表 岡野 芳子

参加 無料 申込 不要

主催：健康増進部 川上公民館 山形県立川上病院 がん/緩和ケア 後援：秋田県

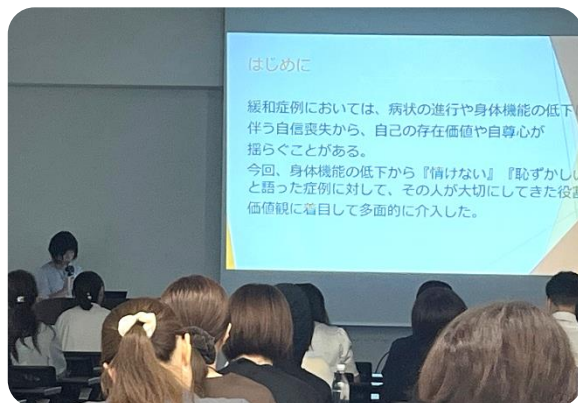
第8回 日本緩和医療学会

中国・四国支部学術大会で発表をしました

緩和ケア専従看護師

秋丸 香織

8/29（土）KDDI維新ホールで開催された、第8回日本緩和医療学会中国・四国支部学術大会 一般演題口演にて発表を行いました。発表を通して、症例における関わり方について学術的視点から振り返ることができました。緩和ケアは1人では行えません。医療スタッフだけでなく、家族・時には本人とも協力し一つのチームとなりケアをしていきます。発表を通して、チームの心強さ・患者さんがもつ強さにあらためて気づかされました。



今後も、よりよいケアの提供ができるよう研鑽を重ねていきたいと思います。当院はがん地域連携病院として山口大学医学部附属病院などの地域がん診療拠点病院と連携をとりながら患者さんやご家族のケアを行っています。些細なことでもお気軽にお声がけください。医療機関からのご連絡もご遠慮なくお問い合わせください。

【栄養だより】 今回のテーマ「サツマイモ」 栄養管理室

今回のテーマはサツマイモです。10月13日はサツマイモの日。江戸時代に江戸っ子たちが言葉遊びなどからサツマイモを十三里（じゅうさんり）と呼んでおり、そこからサツマイモの旬である10月と掛け合わせて10月13日がサツマイモの日となりました。

Q. どうしてサツマイモが十三里と呼ばれていたの？

A. 言葉遊びとサツマイモの名産地との江戸の距離からです。
「栗(九里)より(+四里)うまい十三里」という言葉遊びと、サツマイモの名産地であった川越が江戸から十三里のところにあったことからそう呼ばれたと言われています。



Q. 焼き芋ってなんで甘い？

A. 加熱することでサツマイモのデンプンが糖に分解されるからです。
加熱すると、サツマイモの中にあるデンプンを分解する酵素が働けるようになり、デンプンを麦芽糖という糖に分解します。そのためサツマイモは甘くなります。ただし加熱しすぎてしまうと酵素が壊れ、デンプンを分解できなくなります。



Q. サツマイモの栄養素は？

A. 食物繊維やビタミンCが豊富です。ビタミンEやカリウムも比較的多く含んでいます。
サツマイモのビタミンCはデンプンに守られているため壊れにくいのが特徴です。皮の部分にも食物繊維やカルシウムなど多くの栄養素が含まれているため、皮ごと食べるのがオススメです。



秋の朝、光を浴びて体を動かしてみませんか？

リハビリテーション部
技士長 佛圓 祐基



秋になると少しずつ日が短くなり、朝晩も涼しくなってきます。季節による日照時間の変化は、私たちの睡眠や目覚めのリズムにも影響します。そのため、人によっては「朝なかなか起きられない」「日中なんとなく眠い」と感じることもあります¹⁾。
そんなときに意識したいのが、朝の光です。朝の光を浴びることは、睡眠や目覚めのリズムを調整する「体内時計」を整える大切なきっかけになります¹⁾²⁾。

おすすめは、朝の光を浴びながらの散歩です。涼しくなった秋の朝に、無理のない範囲で少し歩いてみてはいかがでしょうか。日頃から適度に体を動かすことは、睡眠の質を整えることにもつながります³⁾。

「散歩まではちょっと難しい」という方は、無理をしなくても大丈夫です。玄関先や庭、ベランダなどで朝の明るさを感じながら、踵上げや椅子からの立ち座りをするだけでも、体を動かすきっかけになります。大切なのは、いきなりたくさん運動することではありません。朝の光を浴びて、少し体を動かす。過ごしやすい秋だからこそ、そんな小さな習慣から一日を始めてみませんか？

参考文献

1) 厚生労働省. 健康づくりのための睡眠ガイド2023.

2) Dautovich ND, Schreiber DR, Imel JL, et al. A systematic review of the amount and timing of light in association with objective and subjective sleep outcomes in community-dwelling adults. Sleep Health. 2019;5(1):31-48.

3) Kline CE, Hillman CH, Sheppard BB, et al. Physical activity and sleep: An updated umbrella review of the 2018 Physical Activity Guidelines Advisory Committee report. Sleep Med Rev. 2021;58:101489.



.. 学会発表をしました ..

令和8年9月5日～6日に大阪府で開催された第24回日本神経理学療法学会学術大会において、【急性期重度脳卒中患者に対する神経筋電気刺激が大腿四頭筋の筋厚・筋輝度に及ぼす影響：単一事例ABAB研究】について、学会発表させていただきました。



急性期重度脳卒中患者に対する神経筋電気刺激が
大腿四頭筋の筋厚・筋輝度に及ぼす影響：
単一事例ABAB研究

佛圓 祐基¹⁾³⁾、井上 大也¹⁾、中嶋 知聡¹⁾、石丸 勝也¹⁾、中村 暢宏¹⁾
施木 洋平²⁾、深谷 泰山³⁾、横井 悠加³⁾、森下 勝行³⁾

1) 都志見病院 リハビリテーション部
2) 都志見病院 脳神経外科
3) 城西国際大学大学院 健康科学研究科